

指導方法等の改善計画について 三原市立西小学校

1 課題と取組について

本年度の結果について
<p>○取組の成果と課題 昨年度、算数では、単位量当たりの大きさについて課題があった。そこで、図を活用して問題を解いたり、解き方を説明したりする活動を意識的に取り入れた。国語では、漢字を正しく書いたり、読んだりすることの指導が不十分であった。</p> <p>○本年度の調査から明らかになった課題 本年度の結果から、算数では、除法の性質に基づいて整数÷小数の除法の解き方を説明することに課題があった。</p> <p>国語では、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題があった。加えて、無回答率10%以上の問題が8問あった。</p>



課題克服に向けた重点取組
<p>○全校での取組について ことわざの意味を定着させるため、かるたなどの活動を中心にことわざに慣れる機会を増やす。 学期に一度、ことわざに関する検定テストを行い、定着を図る。 無回答の児童をなくすため、家庭学習等で作文の宿題を出すなどし、書くことへの抵抗感をなくす。また、最後までやり切ることの大切さを指導する。</p> <p>○授業改善について 算数科において、友達の考えを説明したり、式を見て解き方を考えたりする場面を設定する。 国語科において、言語事項について指導する際に、慣用句やことわざ等を入れて分を書かせる場面を設定する。 国語科において、目的や意図に応じて、必要な情報を取捨選択し「根拠や理由を明確に」て書く活動を設定する。</p>

2 本年度の結果(全国)

教科	国語	算数
目標値 (対県比%)		
結果 (対県比%)	64 (94.1%)	68 (100%)

3 取組の計画

平成31年度 2学期
<p>【全校での取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員で問題を解き、正答率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・課題に応じて、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 ・「標準学力調査」に向けて、昨年度の様子を踏まえて実態把握を行い、課題に応じた問題演習を行う計画を立て、実施する。 ・ことわざカルタなどを行い、ことわざに慣れる機会を増やす。 ・ことわざに関する検定テストを行い、定着を図る。 ・無回答の児童をなくすため、家庭学習等で作文の宿題を出すなど、書くことへの抵抗感をなくす。最後までやり切ることの大切さを指導する。
<p>【授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者単元末テストの算数科「数学的な考え方」、国語科「言語」「漢字」の観点において、到達率80%以上を目標として課題に応じた授業改善に取り組み、12月に到達率と授業改善の視点が適切であったかどうか検証する。 ・算数科において、友達の考えを説明したり、式を見て解き方を説明したりする場面を設けることで、計算のきまり等を活用して説明する力を高める。 ・国語科において、ことわざ等の言語事項を使って作文する機会を設けて、定着を図る。
平成31年度 3学期
<p>【全校での取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準学力調査」の課題を分析し、全国学力・学習状況調査に向けて、課題に応じた問題演習を行う。 ・ことわざカルタなどを行い、ことわざに慣れる機会を増やす。 ・ことわざに関する検定テストを行い、定着を図る。 ・無回答の児童をなくすため、家庭学習等で作文の宿題を出すなど、書くことへの抵抗感をなくす。
<p>【授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者単元末テストの算数科「数学的な考え方」、国語科「言語」「漢字」の観点において、到達率80%以上を目標として課題に応じた授業改善に取り組み、3月に到達率と授業改善の視点が適切であったかどうか検証する。 ・算数科において、友達の考えを説明したり、式を見て解き方を説明したりする場面を設けることで、計算のきまり等を活用して説明する力を高める。 ・国語科において、ことわざ等の言語事項を使って作文する機会を設けて、定着を図る。 ・1月の校内授業研究において、本校の国語における課題に対応した授業を実施する。

4 次年度の正答率(全国)

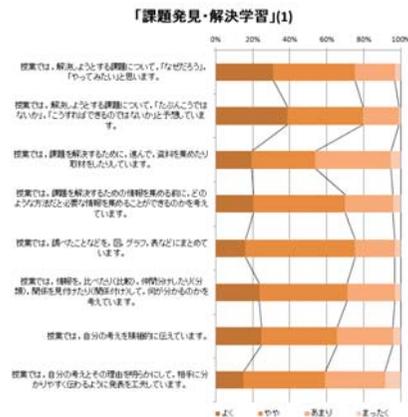
教科	国語	算数
目標値 (対県比%)	67.2% (105%)	71.5% (105%)
結果 (対県比%)		

5 取組の振り返り

○効果のあった取組
○改善していく取組

別紙2 質問紙調査の結果について (「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査)

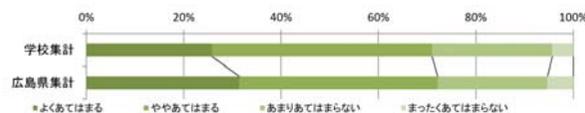
(1) 生活・学習



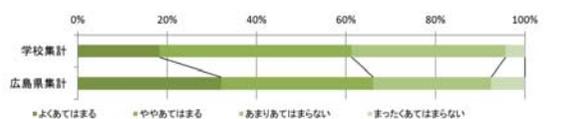
児童生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。」の質問に対して、肯定的回答した児童の割合が、59.1%で、県平均との差が-7.5ptであった。	伝える目的をはっきりさせるとともに、話型に沿って話したり、根拠を基に発言したりできた児童に肯定的評価を行う。	1年～6年	70%	課題項目において、再度質問紙調査をする。	12月		

(2) 教科

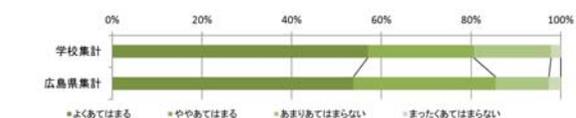
国語科の需要では、伝えたいことの手をしっかりとらせ、組み立てを考えて文章を書いています。



算数の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに



理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識しています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	肯定的評価 71.0% (県平均-1.2pt)	全国学力・学習状況調査での課題とも合わせて、伝えたいことと理由や根拠との違いをはっきりさせて書かせる。	1年～6年	75%	課題項目において、再度質問紙調査をする。	12月		
算数	肯定的評価 61.3% (県平均-4.7pt)	算数科において、友達の考えを説明したり、式を見て解き方を考えたりする場面を設定する。	1年～6年	70%	課題項目において、再度質問紙調査をする。	12月		
理科	肯定的評価 80.6% (県平均-4.8pt)	児童が主体的に課題を発見し、解決していくために、探求の過程を意識した指導計画を作成する。	3年～6年	86%	課題項目において、再度質問紙調査をする。	12月		